

藻食性魚類の生態管理研究

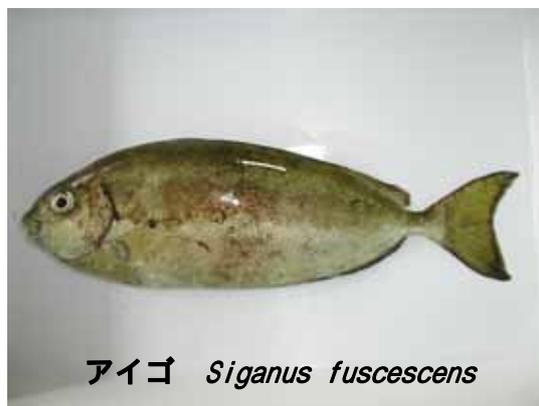
(予算区分 国補助 研究期間 平成 13 ~ 16 年度)
伊豆分場

【研究の背景とねらい】

- ・ 本県、特に御前崎周辺の榛南海域では磯焼けによりカジメ、サガラメ等の藻場が衰退し、海藻ばかりでなく、海藻に依存している有用魚介類の漁獲が減少しています。
- ・ この磯焼けの持続要因として藻食性魚類の食害が大きいと考えられるため、藻食性魚類の分布や生態、藻場に対する影響を明らかにし、食害防除策を検討しました。

【研究成果】

- ・ 海藻の食害魚種を明らかにし、さらに榛南海域では藻食性魚類アイゴによる食害の影響が磯焼けの持続に関係していることも明らかにしました。
- ・ 刺網と定置網の漁獲量データから、榛南海域におけるアイゴの分布を把握し、さらにアイゴの漁獲は水温と関連が深いことを明らかにしました。また、刺網操業日誌データから、榛南海域のアイゴ資源量を推定しました。
- ・ 榛南（磯焼け域）と伊豆（カジメ群落域）に生息するカジメの生長と生育環境（光、水温条件）を明らかにしました。その結果、榛南海域では海中の光環境が伊豆と比べて悪くカジメの生長に影響を与えており、さらにアイゴによる食害を受けるため磯焼けが持続していると考えられました。
- ・ 榛南海域でのアイゴによるカジメ食害量を定量的に評価し、食害がカジメの生残に及ぼす影響を把握しました。
- ・ アイゴのカジメ摂食量と成長を把握する水槽実験を行ったところ、アイゴは比較的高い水温（20～25℃）でカジメをよく摂食するものの、カジメのみでは成長しないことが、また、配合飼料を与えるとカジメ摂食量が減少することが明らかになりました。
- ・ アイゴのホンダワラ類への嗜好性を把握する水槽実験を行ったところ、オオバモクに比較的高い嗜好性が見られ、オオバモクとカジメを同時に与えることでカジメ摂食量を減少させることができました。



アイゴ *Siganus fuscescens*

日本では下北半島以南に分布し、本県沿岸でもごく普通に見られる魚種です。
背鰭、臀鰭、尾鰭の棘に毒があります。

【研究成果の普及方法】

- ・ 本研究により、榛南海域でのカジメ群落の造成には、人為的な資源管理と食害を受ける夏から秋において防除網や他の海藻類等でカジメをアイゴから保護し、再生産（次世代の発生）を確保することが有効と考えられました。水産試験場では、これを基に榛南海域の磯焼け対策を推進するべく、漁業者への指導、協力を行っています。また、現在、水産基盤整備事業によるカジメの大規模移殖が進められています。

(作成 平成 17 年 3 月)